

# ねと わあし



●特集  
自分らしく生きる

# わつわあ

No.27



人生いろいろ という歌があります  
人の生き方はそれぞれですが  
いきいきと自分らしく生きたいと 誰しも願うところ  
それなのに何故か？  
自分が本当にやりたいことが 見つからない  
見えない鎖でもあるかのように  
行動したくても動けない

そんな時には ふっと肩の力をぬいて  
「何が自分を縛っている鎖なのか」を  
考えてみましょう  
視点をかえて見てみれば、  
本当の自分が見えてくるはず  
何かがほんの少し見えてくれば  
その時がチャンス！  
できるところから  
“自分らしい何か” をはじめてみませんか？

## も く じ

### ◎特集:「自分らしく生きる」

4 提言—しなやかに したたかに  
自分らしく生きる  
・読売新聞記者 山口 正紀さん

6 ヒューマン・ウォッチング  
・大仁町 勝又ふみ子さん  
・浜松市 奥野 義広さん  
・伊東市 太田 恵子さん

8 座談会「自分らしく生きる」  
・三島市 高橋 寛之さん  
・由比町 田辺 福治さん  
・浜松市 長谷美智代さん  
・静岡市 飯塚 正世さん

12 Interview  
前むきに生きたいと願う人のために  
・立教大学教授 佐藤 悦子さん

14 編集員のおすすめ読本

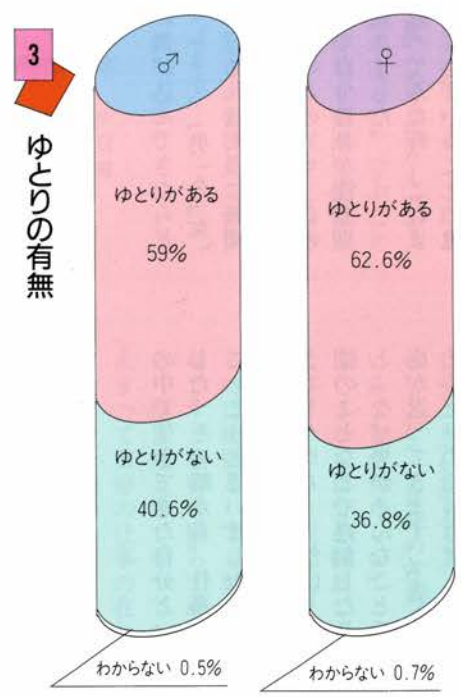
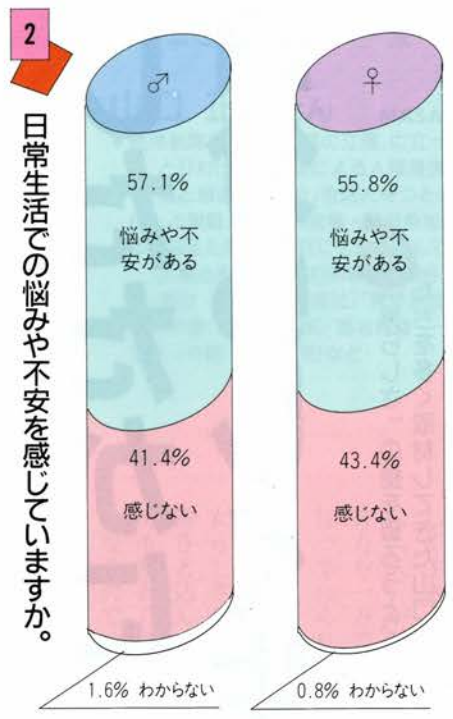
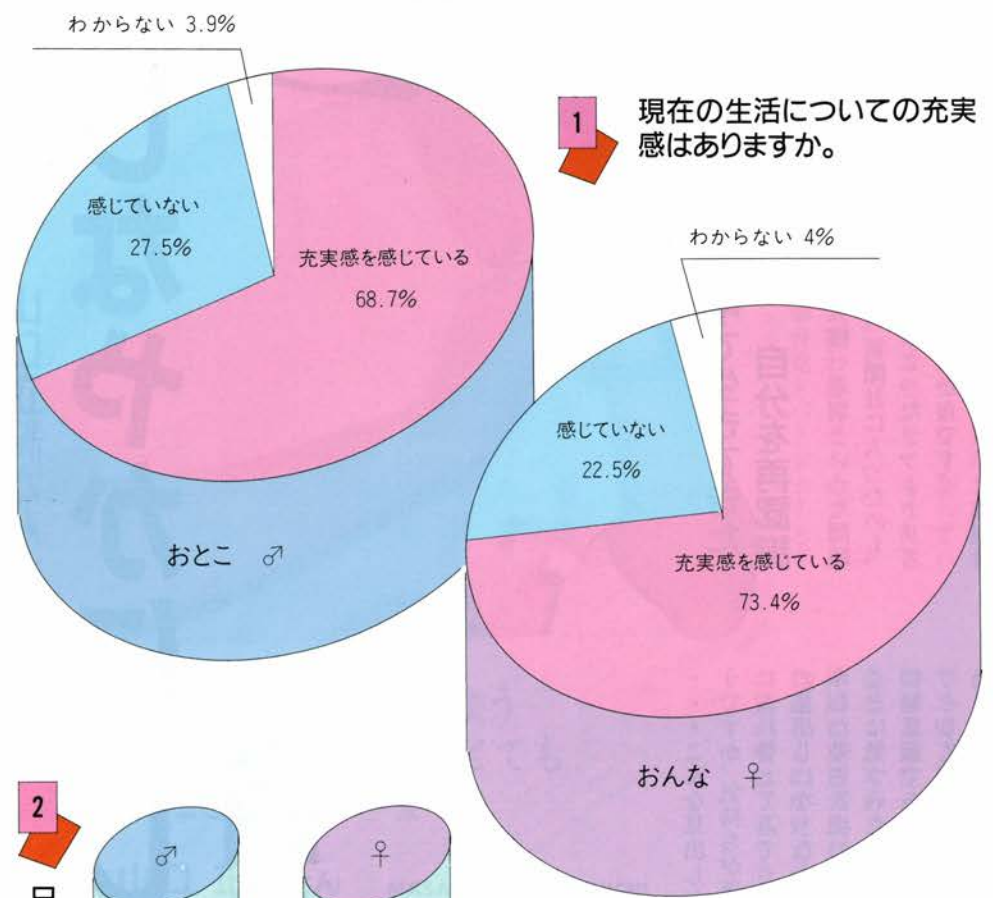
15 女性政策キーワード  
…「家族的責任条約」ほか

# 特集●

# 自分らしく生きる

## Q. あなたはこのデータをどう読みますか？

※資料出所：総理府「国民生活に関する世論調査」(平成6年)



■解説■  
 男女とも7割近くが生活に充実感を感じています。そして女性の方がわずかですが、その割合が高くなっています。  
 しかし、2のグラフからはおよそ2人に1人が何らかの悩みや不安を感じているという結果が出ています。  
 これをあなたは、どうとらえますか？



# しなやかにしたたかかに

# 自分らしく生きる

「男らしさ」の壁を破ろうと、新しい生き方を模索している男たちを多く取材してきた山口さん。ご自身もそうした生き方を模索されています。自分らしく、好きなことをして生きようよ、とおっしゃるその裏側には、「自分らしく生きられる社会とは、自分の人権も他者の人権も等しく大切にされる社会だ」という、人権侵害に対する確固たる信念をもって仕事に向かう真剣な姿がうかがえます。

## 男 文化の中で生きてきた 自分を再認識

僕は学生時代から、人権、差別といった問題に関心を持っていました。新聞社に入ったのも、抑圧された人たちの立場に立ったジャーナリズムの仕事をした、と考えたからです。

ところが、新聞やTVの犯罪報道では被疑者を犯人扱いし、あらゆるプライバシーを暴き立て、社会的な死刑に追い込んでいくことがままあります。そうした報道姿勢に疑問を抱き、メディアの内部にいる人間として、人を苦しめない報道をしたいと自分なりに思ってきました。しかし、性差別の問題に気づいたのは、僕が活動している「人権と報道・連絡会」の女性メンバーからの指摘があつてからです。女性は、女性であるがために、二重の人権被害を受けている、という指摘です。例えば「男心悲し／夫の座狙い、愛人の若夫絞殺／32歳、男教師／男性特有の自己中心的性格から／中年男の業」

・・・こんな見出しが目に飛び込んできたらどうですか、気持ちが悪いですよ。「男」を「女」に入れ替えてみてください。これは実際に新聞の見出しになったものです。女性たちは日々こうした差別表現にさらされているのです。このことに気づいた時、それまで自分自身が性別に無意識であったことに驚きました。

そして、私生活を振り返ってみた時、これまで自分の思っていることと、していることの違いに気づかされました。

僕はもともと頭では男女平等ということ、十分理解しているつもりでした。子供のおむつをかえることもしてきましたし、結婚以来、洗濯は僕の分担です。でも新聞社という超男社会では企業戦士として働かざるを得なかった部分もある。その中で、無意識に性差別を肯定していたんですね。僕は今までに2回転職しましたが、妻がついてくるのはあたり前だと思つてました。その度に妻は転職を余儀なくされたのですが、その痛みには気づいていなかった。性差別報道を通じて私生活を見直し、改めて男文化

の中で生きてきた自分というものを再認識しました。その時から、仕事中心の生活態度を変えていこうと思いました。

会社との軋轢はもちろんありましたよ。共働きでしたから、当然ほくも、子供の病氣、保育園のことなどで遅刻したり、休暇を取る。すると「なぜ男がそんなことで休むのか」という反応が返ってきます。「妻を働かせているのか、養えるだけの給料は渡してあるはずだ」と。妻には妻の生き方がある。本来、人の生き方の問題のはずです。ただ会社との軋轢という意味では「人権と報道・連絡会」の活動に対しての方がずっと大きかった。新聞記者がメディア批判するとはなにごとかというプレッシャーですね。でも、新聞を良くしていくために必要だという新聞記者としての自分の信念がありましたから、自分らしさを守るために、我慢せず言いたいことを言ってきました。何を大事にしたいか、どう生きたいかの信念があれば会社との軋轢も乗り越えられると思います。

# 新

## 新しい生き方を 模索する男たち

5年前に「家庭と暮らし」欄を担当しました。その時「家庭欄＝婦人のもの」というイメージを払拭して男性も関心を持って読めるページにしたいと思い、定年問題をはじめ、家事育児に関わる男たち、売買春やセクシユアル・ハラスメントを告発しようとする男たち等を取材してきました。彼らは、日本社会の中ではごく少数派ですが、自分の生き方や、家族とのつながりを真面目に考えている人たちでした。取材していくうちに、僕自身が彼らと重なり合っている、同じ仲間だ、と思えたことがとてもうれしかった。

例えば「家事、育児に関わる男たちのグループ」がある。彼らは家事育児をパートナーと平



納得のいく生き方をしよう  
自分らしく生きるのは、とても  
楽しいことだと思います。

### 山口 正紀さん MASANORI YAMAGUCHI

●読売新聞社記者。「市民の立場」に立ったマスメディアをめざし、とりわけ犯罪報道による人権侵害をなくしていくために「人権と報道・連絡会」世話人をつとめる。記者としては、「暮らしと家庭」欄で男の家事・育児参加、子どもの権利問題や定年を迎えた男性の取材にも取り組んできた。

『人権と犯罪報道』『犯罪報道の現在』(いずれも「法学セミナー」増刊 共著日本評論社)『男性改造講座——男たちの明日へ』(共著 ドメス出版)『匿名報道——メディア責任制度の確立を』(共著 学陽書房)など

等に分担し、それを本当に楽しんでやっている。仕事の付き合いより、自分自身の楽しみ、家族や友人との時間を大切にしている。残業はほとんどせず、休みはしっかりとる。そうすると、当然、企業戦士の路線からはずれていく。でも彼ら一人一人が「そんな働き方は間違っている」と声をあげること、周りに徐々に影響を与えていく。そういつたことが、今の社会の構造を少しずつ変えていく大きな力になると思います。

一昨年、有給休暇を取って、スウェーデンのマス・メディアの実情を取材してきました。そこでの男性記者の働き方をみて感動しましたね。事件記者として最も有名な男性が、これまで二度、長期の育児休暇を取ったと言っています。彼は「男性が育児休暇を取ることで、学ぶことはたくさんある。視野が広がり、生活全般に主体的になる。取材だけしかしていなかった時とは違うものが見えてくる。普通の生活者の視点の無い者に、どうして良い記事が書けるのか」

と書いていました。さらに「メディアは人権侵害をなくすために仕事をするものだ。」とも。それこそ、ぼくらが学ばなければならぬ点だと思いました。

# 自

## 自分らしさを 発見するために

まず、パートナーとじっくり話をすることが第一歩だと思います。いない人は、親しい友人でもいい。最も身近な人間が何を考え、また自分をどう見ているか聞いてみる。そうすると自分の思い込みとのギャップに気づくはずで、もちろん自分の考えも率直に話す。「黙っていることが男らしい」というようなつまらないらしさから自分を解放して、自分を出すことが大事です。そして、無理するのはやめましょう。頑張るなど言っているではありません。頑張る時は頑張る。でも何を頑張るのか、問題は自身です。脇目も振らずがむしゃらに生きていると、何も見えなくなってしまう。ちょっと立ち止まって自分の仕事の在り方や本当は何を大事に生きたいのかを考えてみる。家族のこと、地域のこと、市民運動、スポーツ etc、世界は無数に広がってきます。そうやって脇目を振りながら生きていく中で、本来の自分らしさが発見できるのだと思います。女性の場合、自分らしく生きようとする時、制度や習慣以外にさらに「夫」が壁になります。もちろん夫を変える努力も一方が必要でしょうけれど、変わるのを待ってられない。だから夫を突き放して、やりたいことをまずやってしまうことです。自分が先に変わってしまえばいいんです。妻らしさ、女らしさ、母らしさの前に自分らしさでしょう。押さえ込んできた自分を解放する。そうすれば、男も変わらざるをえないし、変わるきっかけにもなるのです。

自分で納得のいく生き方をしている人はいきいきしています。自分らしく生きるといえるのは、とても楽しいことだと思います。